

[別紙①]

1 取組名 地域の方と共に創るお城ガイド

2 ねらい

篠山の歴史を伝える「お城ガイド」を地域の人たちと共に作り上げる活動を通して、地域の人たちとの交流を深め、自分や友だちだけでなく、地域の人たちや自分たちの住む地域を大切にす  
る気持ちを培う。

3 実践内容

第1次「篠山城について調べよう」

(1)【篠山城の見学】

地域の方やゲストティーチャーに篠山城を案内していただいた。児童は気付きや興味をもったこ  
とをメモしながら、お城の魅力を発見し、自分がガイドしたいと思った場所についてイメージをも  
つことができた。



地域の方・ゲストティーチャーによるお城ガイド

(2)【ガイドの原稿作り】

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| ① ガイドする場所を決める | ② ガイド内容の詳細を決める  |
| ③ ガイド原稿の作成    | ④ ガイド原稿の推敲と資料作り |

ゲストティーチャーに2回来ていただき原稿を一緒に作った。児童は博識なゲストティーチャー  
に感心しきりであった。最初は恥ずかしそうにしていたが、ゲストティーチャーの方とも関係  
ができ、様々な疑問をもったり質問ができたりするようになってきた。



ゲストティーチャーと共にガイド原稿を作成

## [別紙②]

### 第2次「篠山城についてガイドしよう」

#### (1)【お城ガイド】



自分たちでお城ガイドを実践

1回目のガイドは5年生に向けて行った。その様子をゲストティーチャーにも見ていただいた。ゲストティーチャーからは歩くスピードやお客さんと会話するポイントについて再度どうすれば相手に伝わるかなどのアドバイスをいただいた。自分たちが実際にガイドをしていただいたときの経験も次回につなげるヒントとなった。

2回目は保護者の方に向けて行った。前回のアドバイスを受け、より「おもてなしの心」を意識して取り組むことができた。

3回目は地域や観光客の方へ向けての案内を行った。これまでと違い初めて出会う方へのガイドということで、何に気を付けようかとガイド内容について確認した。これまでの学習をふり返り「おもてなしの心」をもってガイドするだけでなく、多くの方々によって守り続けてこられた自分たちの町を紹介したいという気持ちをもって取り組んだ。「ありがとう。」「お城についてよくわかりました。」という言葉に、自分たちの思いを伝える喜びややりがいを感じる事ができた。

#### 4 まとめ

子どもはお城ガイドを行うにあたり多くの地域の方の協力を得た。複数回協力いただけたことでゲストティーチャーと交流をすることができた。また、調べたことを5年生、保護者、地域の方に発信することで相手を意識した発表が行えた。お客さんから感想を聞いたことも児童のやりがいにつながり、今まで以上に相手意識を感じる学習となった。

#### 授業後のふり返り

- 篠山城について詳しくなりました。いろいろな人の前で話すことの大変さも分かりました。でも、何回も人前で発表したので、人前で話す力が少しついたと思います。もっと大きな声で発表できるようにしていきたいです。自分たちの町にある篠山城をガイドできたことはとてもよかったです。
- たくさんのゲストティーチャーに教えていただいたことで、お城の歴史がよくわかりました。人前で恥ずかしがらずに発表できたことはよかったです。原稿用紙を見すぎて笑顔で発表できなかったことが悪かったところです。
- ただ発表するだけでなく相手を気づかうことが少しはできたと思います。お年寄りの方もいるのでゆくりと大きな声でしゃべったり、お客さんのことを考えて行動できたらもっとよかったです。